



第3回意見交換会

2021年11月21日（土）に、パートナーズ・ボイス・プロジェクト第3回意見交換会をオンラインで実施しました。参加者は事務局を含めた計8名（プラス資料提供1名）と少人数でしたが、各地から参加していただき、充実した意見交換ができました。

『グリーンセイバー・キッズプログラム』

遠征先の新潟から報告：高橋 まり子さん

単発のイベントではなく、同じ場所、同じメンバーで、継続的に実施する子ども向けプログラムを提案。フィールド、実施方法等を模索していたところ、八王子市の「上川の里」で活動している「森のライフスタイル研究所」からアプローチがあり、ここを拠点にしてはどうかと現地調査をスタート。今後は調査を続けながら、企画を作成していく予定です。

『仙台・八木山テラス』

資料提供：菅原 成至さん

東北での活動の足掛かりとして、仙台市にある「八木山テラス」の緑地保全活動に参加している菅原さんから、11月13日に準備のために行われた草刈りと、14日に実施されたイベント「市民センター主催ウォーキング」の報告が届きました。「約20組の参加者は綺麗に除草された遊歩道で、クイズを解きながら思い切って秋を楽しんでおられました。」



八木山テラス
<https://terrace.yagiyama.jp>

『オンライン育苗勉強会』

富山から報告：林 嶋太さん

GSの勉強会としてスタート。2年目からコロナ禍もあり、オンラインに切り替えて春夏秋と3回実施。年明けに4回目を行う予定です。在来の樹木や山野草をそれぞれの自宅で育てて増やしていく、その状況や悩み、気づきを共有。ゆくゆくは、それぞれが育てた在来種を、地域の里山や森に還元して、里山や森の再生につなげることができたらと考えています。

『真庭トンボの森づくり』

岡山から報告：小桐 登さん

岡山県北部の真庭市で、2012年より森づくりをしています。トンボ学生服在職中は社員として、退職後は一般社団法人オカヤマエコサポートーズとして参加。年に3回、70~100名が参加する森づくり活動を実施する他、林間学校や森づくり体験授業の受け入れ、森の木と学生服の残布でハンモックを作るワークショップ、森の舞台でのコンサートなどを実施。宿泊施設やアスレチック施設などもあり、今後もさまざまな活動を計画中です。

意見交換

これらの報告を踏まえて、「仙台も真庭も、地元住民が参加してコミュニティができるのが素晴らしい。町田フィールドも地域住民を巻き込んだ活動にしていきたいが、どうすればいいだろう。」「育苗勉強会のような取り組みは、学校で生徒たちにやってもらうといいかかもしれない。」「ササの葉、バラン、クロモジなど、森から生まれるものを利用することを広めたい。」「竹の活用もニーズがある。ザルやカゴなどの竹細工をGS企画でもやってみたい。」といった話題で話がはずみました。

今後も皆さんと活動や運営について話し合う場を定期的に設ける予定です。参加したい、役立ちそうな情報や人脈に心当たりがあるという方は、ぜひ事務局までご連絡ください。